

タカツカ某の気を送るテレビを見ていたら、痛かった手が治ってしまつたと調剤薬局の女の子が目を丸くしている。

ウチの家族も四人中三人、スプーンが曲がつた。別に驚くほどのことではない。世間には不思議なことは一杯あるよと答えながら、私の口吻が小林秀雄に似ていることに気がついた。

長距離ドライブの時、BGM代わりに彼の講演テープを聞くことが多い。聞く度に新鮮なのは、私の健忘症のためばかりではあるまい。その一つにユリゲラーの念力の話が出てくる。

ユリゲラーのテレビを仲間と見ながら試みると、壊れた時計は動き、スプーンも曲がつたという。小林秀雄はそんなことつまらないことだよ。世間には驚くべきことは沢山あるとコメントしている。

不思議なやり方で病気が治ることは昔からあるが、未だに医学会では認めようとしなない。科学的ではないという。それでは今の医学会が科学的かというと、統計学に近い。正規分布の両

裾をはしよるか、裾の一部を取り上げて、珍しい症例がありましたと発表し、その希少の意味合いを掘り下げようとしなない。

不思議な事実を信じ、なおかつそれを掘り下げるか否かで、医学会は面白くもなり、つまらなくもなる。